清し家

三十五

別13
25
28

別圖
22

国立国会図書館　タイトル『きよしげ』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

13-28

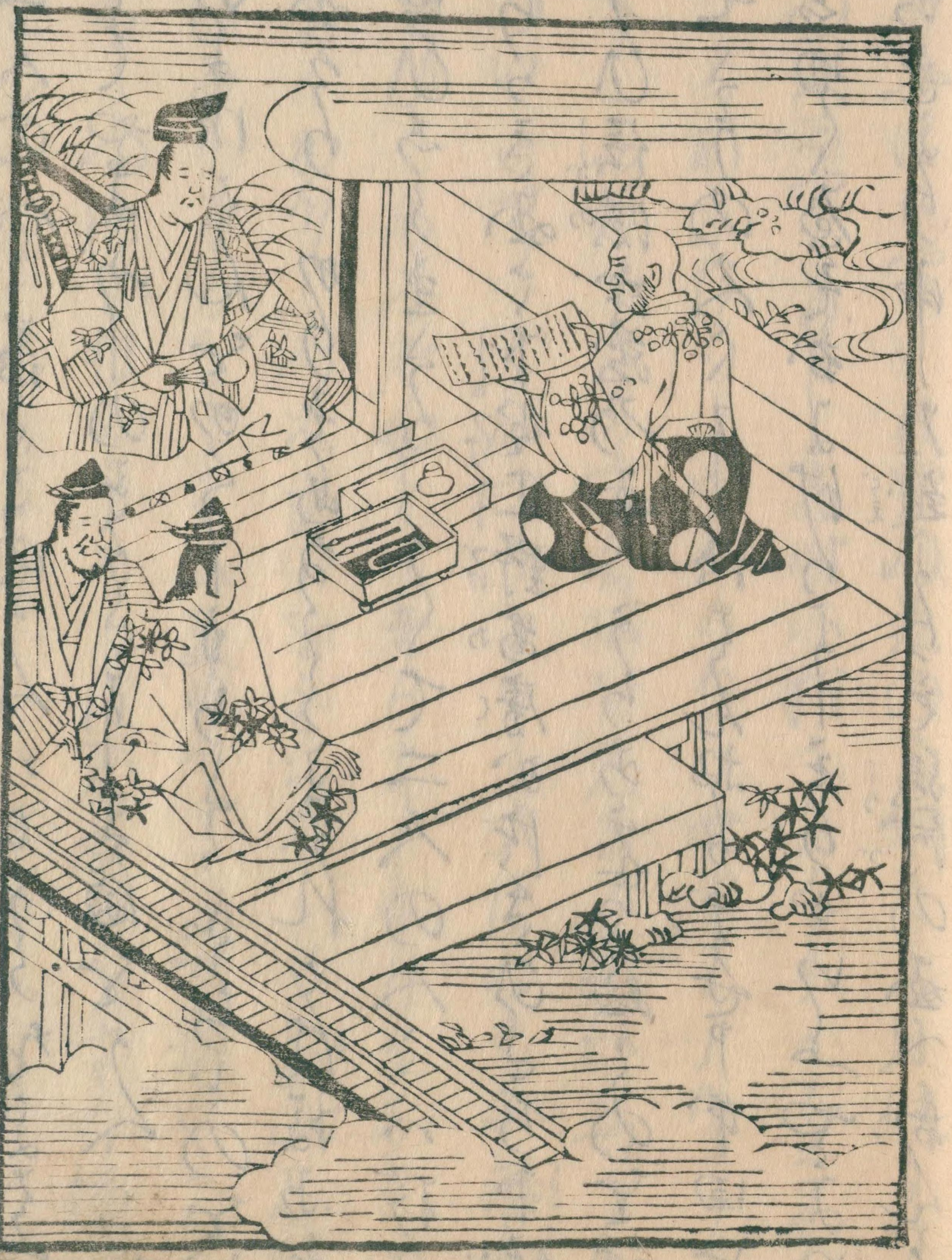
きよしげ

判官（はうぐわん）武蔵坊（むさしばう）めされいふむさしやうくよ清盛（きよもり）の大名高家（かうけ）からもよし清のかんぶしれせずなさ人もまるるん急（いそ）き廻文（くわいぶん）をおりしれてさんその清ちやうあり為んきいあまく状を書て来りせきまはく判官は判（えん）状すへさうせ給ひ相し状をふまやのそのめりぬ達されなきふまししとやとも伊勢（いせ）の三郎よしもり駿河（するが）のじらう清重（きよしげ）ふまへ二人ぞはかんにそくめせよとてはあ人よめさまはふかうさく此ちやうを読国はかしよ

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『きよしげ』　請求記号　本別13-28

ガラス使用



みせてうへ段（だん）事（ど）しそのむとのは錠（ぢやう）取り二人
乃人こ所く世（せ）界（かい）のやうをおんぶろうは合（かつ）戦（せん）い
ゐさしくはましおそしをもつてとくまいては
候ぜんとやすらうぐんさうしめされてけるさ
のときをせん事え心そゑいぶんをまいらむ
えめけくハ礼としうへしさてそのふしとの
はちゆうなり

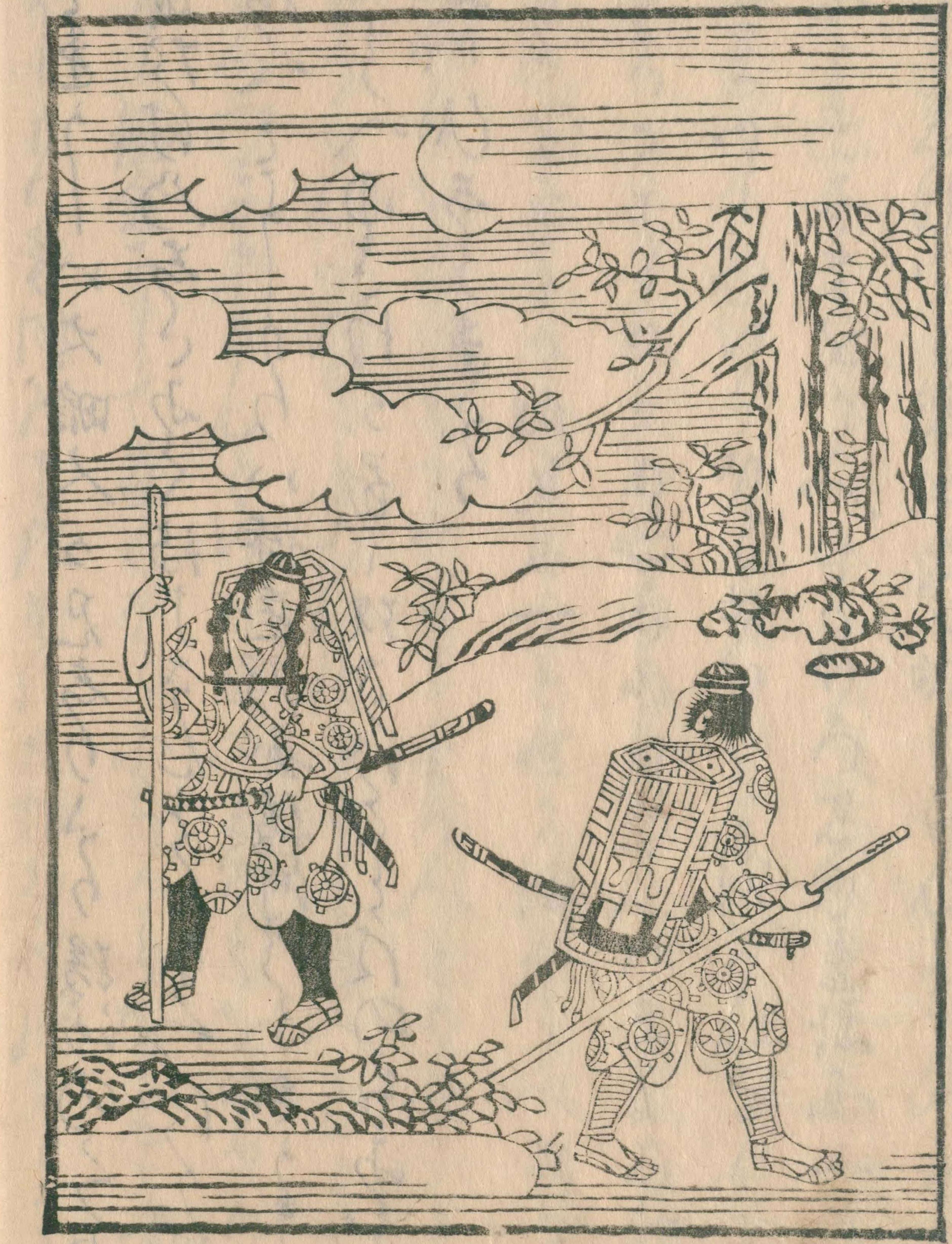
二人の人ゝ義ともの(ら)う人ハちうろなとよをしのびすともやまぶしのすがたとなり毎をう人をいまハらんをかくしまちかうぶらうどのをおふかりかりそめなかうなれとは我なそ思ひよらずまよふて二人の人ゝハ打くちりゝにし下野(しもつけ)上野(かうづけ)我(わ)か度(て)にさきさち下総(しもふさ)うひ信濃(しなの)武蔵の國へうちあさちょ殿(ど)のを初七うの人ゝハ清ちん打かすせ中本田比さゆく庵そおもけりしもりゝいふやうハあまたより中山越(ごえ)よりを駿河(するが)の國へおもむく

いふ清重よく日本乃花のミやこ名月比もしく乃大しやうぐんありし當時ハおほかくらかちこやかうすら新京たりと思ふあり思すりをよふきよしげかきまかゝる名所をも見ぶらもんハふらくのいさ里をぞんずるあり此清ぬく小鎌倉(かまくら)をひとめみだちやとゆきりよしありうるまきぞむねくなりりしを此度めてうふて打くうきよきくかりく乃大事をそらなりつゝ越山(ゆえん)見ぬろゝ乃清重も知ようあらくは見おうゝする鎌倉をすらなくゑ駿河あすくよ伊豆(いづ)へとゆきけり

きよしげゆく〳〵殿（との）とそかくらんようのこゝめ
ふしきさまとうへからいろ見物遠法西一見
やまつし乃いろわしく物ゑ残らんすのよ
まつのきりのあやしめらまんいきよしげ
計の軍（ぐん）さうのほ勇者一とせの海へうつへおり
のおりをしけ急してこし来る人をありしそ
さうらんのみ舎ともひでをさし殿へ歴かく
をかつさやさんとりの海の志ゆくとのおり
より鎌倉さして急く行ふちゆうかとよみす
よしありを同なやなたきれたおわせれしく

そ連うしハ大將人の見志りより殿（との）のくふ
成たけ乃志さふく詩やさんとくなるはかせ
殿へとよしりハ伊豆（いづ）の西殿河（が）ざるのまゝ
くうへゆきわの前残さうごとはのちふぞ
おりひ志う連うる

国立国会図書館　タイトル『きよしげ』　請求記号 本別13-28
ガラス使用



けうあひさこそきよしけハふしきなる事をわくわ
けうかなりくを弁れ三孫をそろへとうち
なりめけるをひさうふあわう海へくさらを
見まさせは（あかりことゝをそよたまで）
ありしをしろのうまくらうや弥文寺れまつ
うせハ里よ志ん乃美やさまよとらんふかうく
む孫をなき人けうたゝの主家（ざいけ）をのきけくき
座川七うらふけのちのかずの上八百余（よ）ぞん
あうゆい乃ちまつり大とり弁いつくうか座川
ふいひし海ハ名みし地ふくろ名所かくのこゝやう

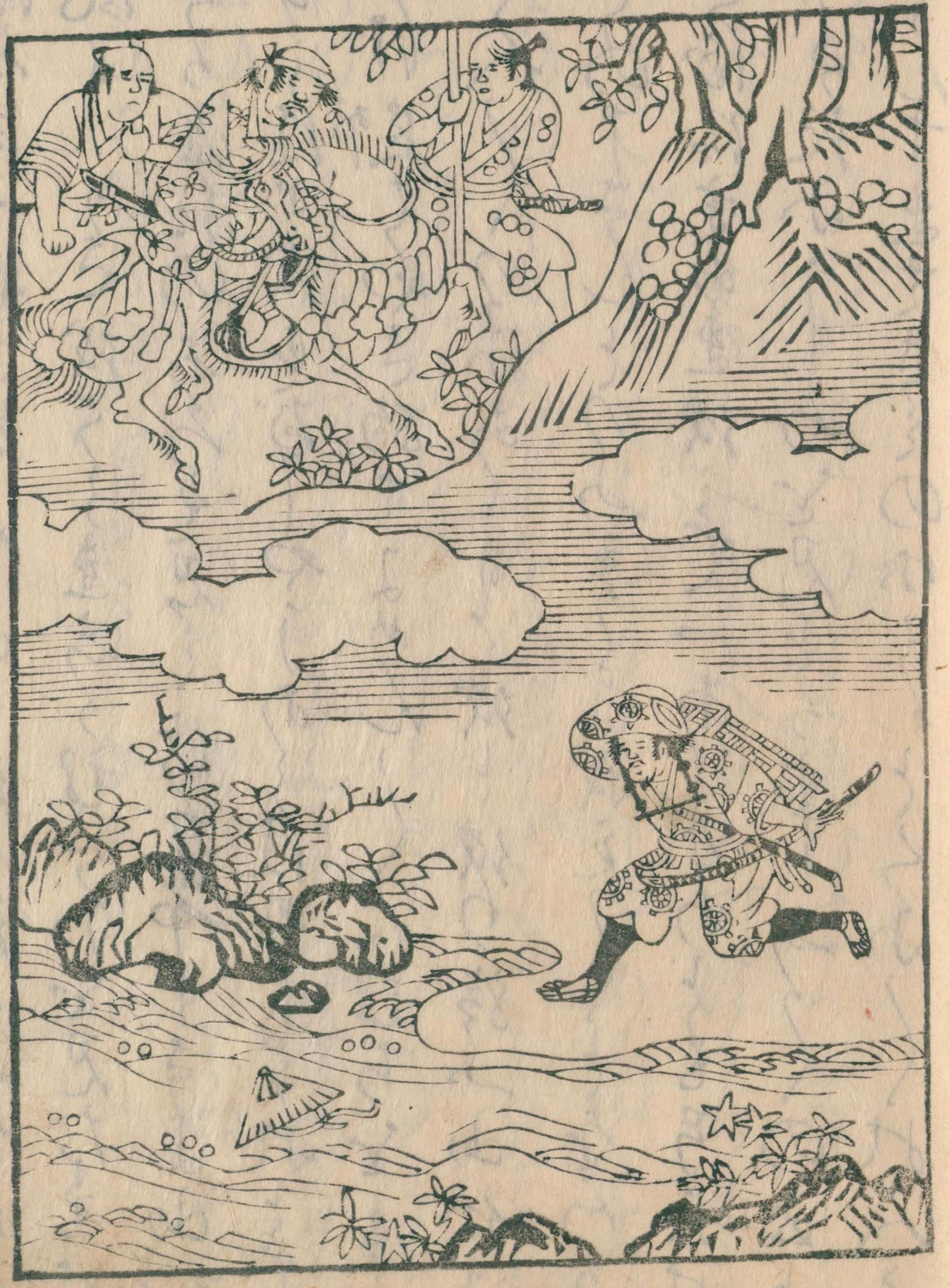
らん乃清水をまんなかにとりひとしむさしすそ
立られける諸大名のざいかまくら目安的當
乃ぢんをうつゆくしうりける所にくきあう
かくあまたはりのさゝ判官とうやうふい川き
やさそと拜りへゑくけるさ清重をなをさこが
前くだされける　その夜の若宮殿に參籠申
夜もすがらきんぜんおんなん經せんよと
きせいしさゝそよしありかゝけのたされ
宵にくまりらんまのひとおもひあけ候ま度
よひおもふてみちけいそげもおりでおく書に

きくおく世川にそ清重ありし候ひかりやせ平へ變
ま梶原（かぢわら）乃源太（げんだ）かけすゑハ庭紀とりよりもしく
御わしの河中よりそむどとゆきあふたり自はく
みくえし事そうしおやまあられおしかゞり
るんとぞんずる法笠（き）をかさふけ清重をさし
ね拜（たい）ますそと綿り候りうんのさいめれおかりし
さんなるひの風か一まとまつとをふて來く
まえちけかさうりゆる　かきさ絵清んと唄
切く　とさんと清重くうそりし掛ら深（え）川え
清む所なりまゞり清重おまゝてそてさらん原紀

国立国会図書館　タイトル『きよしげ』 請求記号 本別13-28

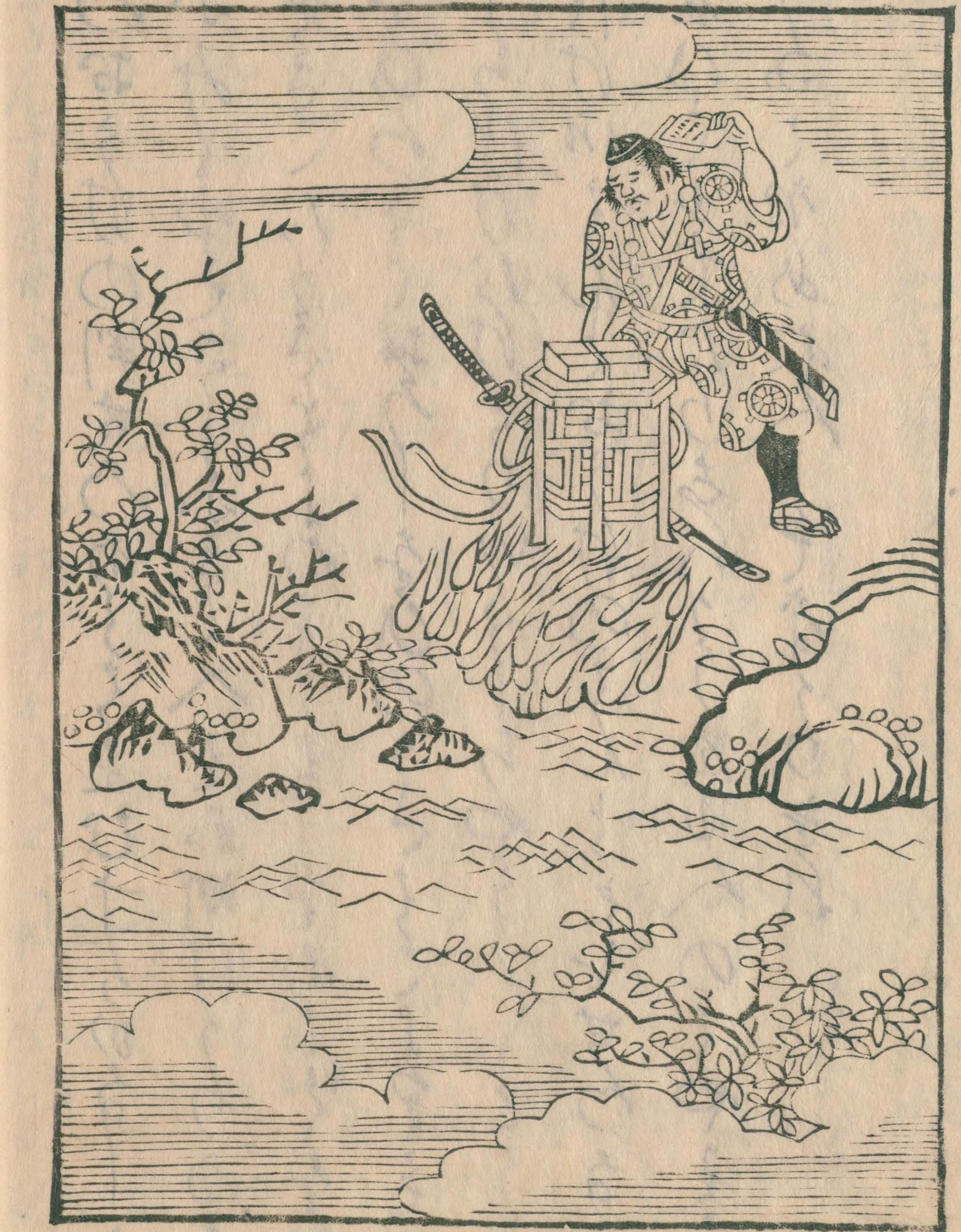
ガラス使用

人にみしられてあしかりなむとそんしけれは
あくうけのさうのそてをさんとかさひて笠
をかふてそろりをきうこらはえ二はえ三はえ
みそれとなくなんはさけひてぬまさうゝと
とうら菓はくさうしぬ許りそてと帰り参ら



源太（げんだ）同しやうな男にてあく我も続く山伏（ぶし）は河
風すうさ我らくまいるさいを見たまは
さう座紀のまろを見て院のお中さまよ山伏
あまはと我までしやうあくはめしとれとて
うけ是（お）ちやき駒（こま）ほよめんしくにむちとまき
そへくりふあくもと我しと続の路ふ山伏ふ
をのやさんといふまうりよ我えしくとなりう
く原清守あまり我こて一あしなりとも号され
うさ紀ふうしろを見んまう事みうくの立と
そんすまで此きての所まいとくふくれ人こ
乃おうけの判官乃あつかまむすかるのしさ
ふみしふをさしふさし入をみ町はりりゆきさ
まきこだのきさとわりもしてあづ関なひ
をひつさと持つしなひのうさなくこよるまを史（ひ）
うちほけたけさりいろしちやうしくさとうち
ほけほさんとおうけのきんとをせんなすふ
盗ひくあそたりあれうり成ゆへのきやすみ
うみとかめぬ人よそなすりきれ

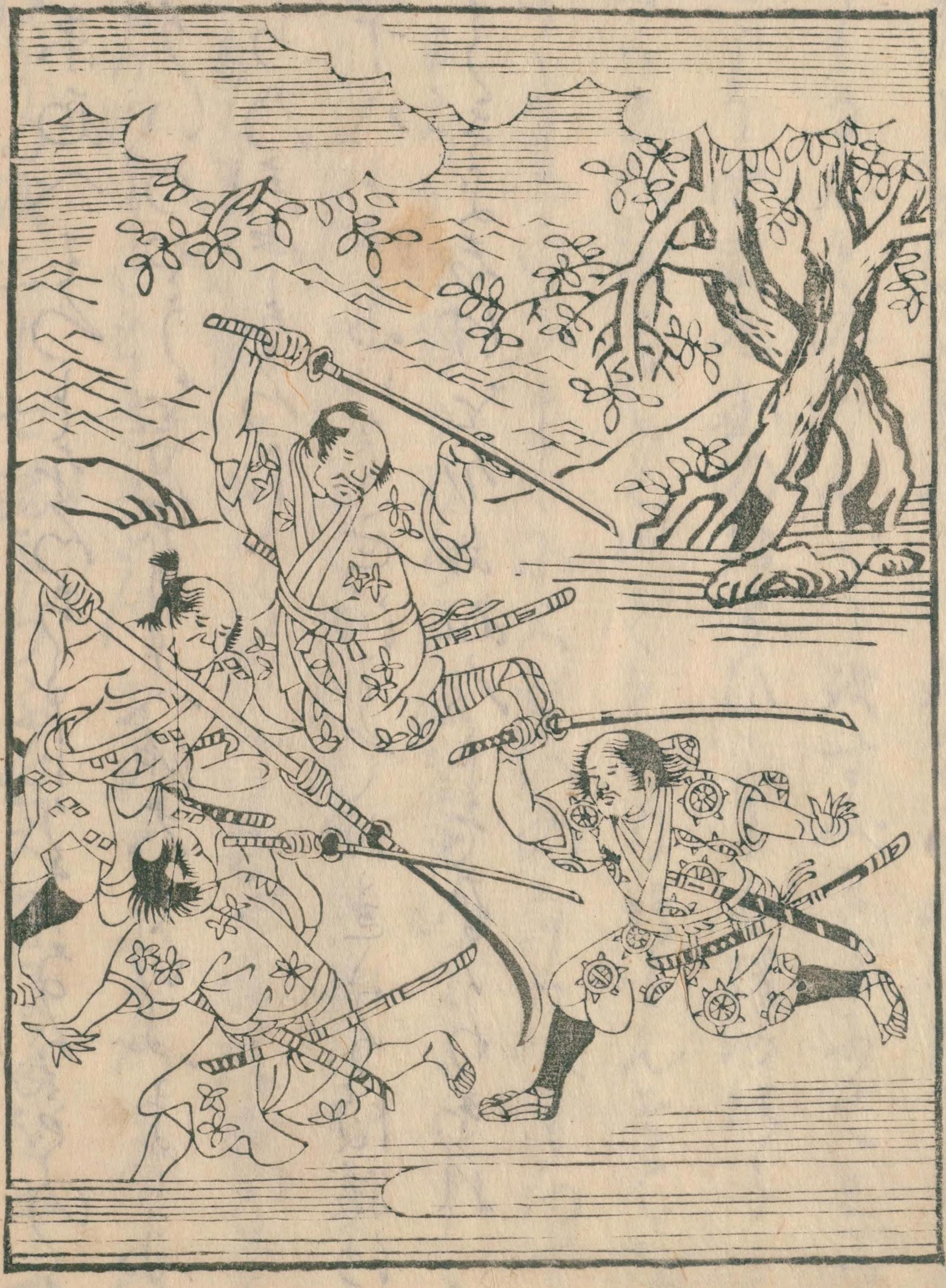
そのゝち大ぜいとりこむまさ清をひのおしに
ゆひつけゝる三じやく八す乃いたのはく
まずりまとめいてまんかりみさしうさし大
ぜんあけく かのう座りゐふうさくうまん
そうあふうはうまなり そうぞうんとのく
にゆちのさふひ駿河(するが)のう清重と申者かくは
うきう乃はさい まちうひや那くをはいくさう達
まいりうせて二ちやうのゆきをひうじうめ山伏
のもうきまさ夜とうん流西一見まゐりしげ
うんうつきて源吾かみあひぬまきらうかし



国立国会図書館　タイトル『きよしげ』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

いまはとひくそれより判官此内にあり
すゝるんとのちんざう殺すべきにさだめてこれを
さころ宮國九郎のたらひとりも殺しなう
梅つきらひ殺してこゝろありはるんそこを
ひくるといふまくに大ぜいのゐるうへまいて
入まろか次郎うありさ海をそのまよふく
たとふまはま内ふくうせまろ逢薬殺ちらし
小島ふざろ小齋一まとちるのちあそせたおとく
なりいまのくとちきち川さわまふくろいきゆうれ
はかりの殺二十七騎きりふせ大勢よよろをおふ
世楽西へまつとなつちるしりうすかこのく
自がいのやうを見なるへ源太といふまのふ
うらの真中をの射てとを十文字よう切く
三十八と申ふいうさ世河りて討まうろ梢殺河
はうきよきけをおめぬ人こそなくうわきれ

さるほどにひさ源太八郎はあまりくるしさにせきおきけ
きよしげが首（び）をとらんとあめるをかよろあふ
ていそき頼朝（よりとも）のはめようつる親銘は頼しして
ぎけいうらうぞうのひびなるはゆいれなまよ
おりけよとてなまのかうおそうけられきる
さるほどにさよしありの竹の下にれ志ゆくまそ
あくそくの月かすみかいかおまてとをなさうり
きりあまりのさしてそんをまけ海道（かいどう）にこら
いそみちゆさ人おも同（どう）じやと思ひなやうい
ようおそいそよきろうるときろうさしろお二人

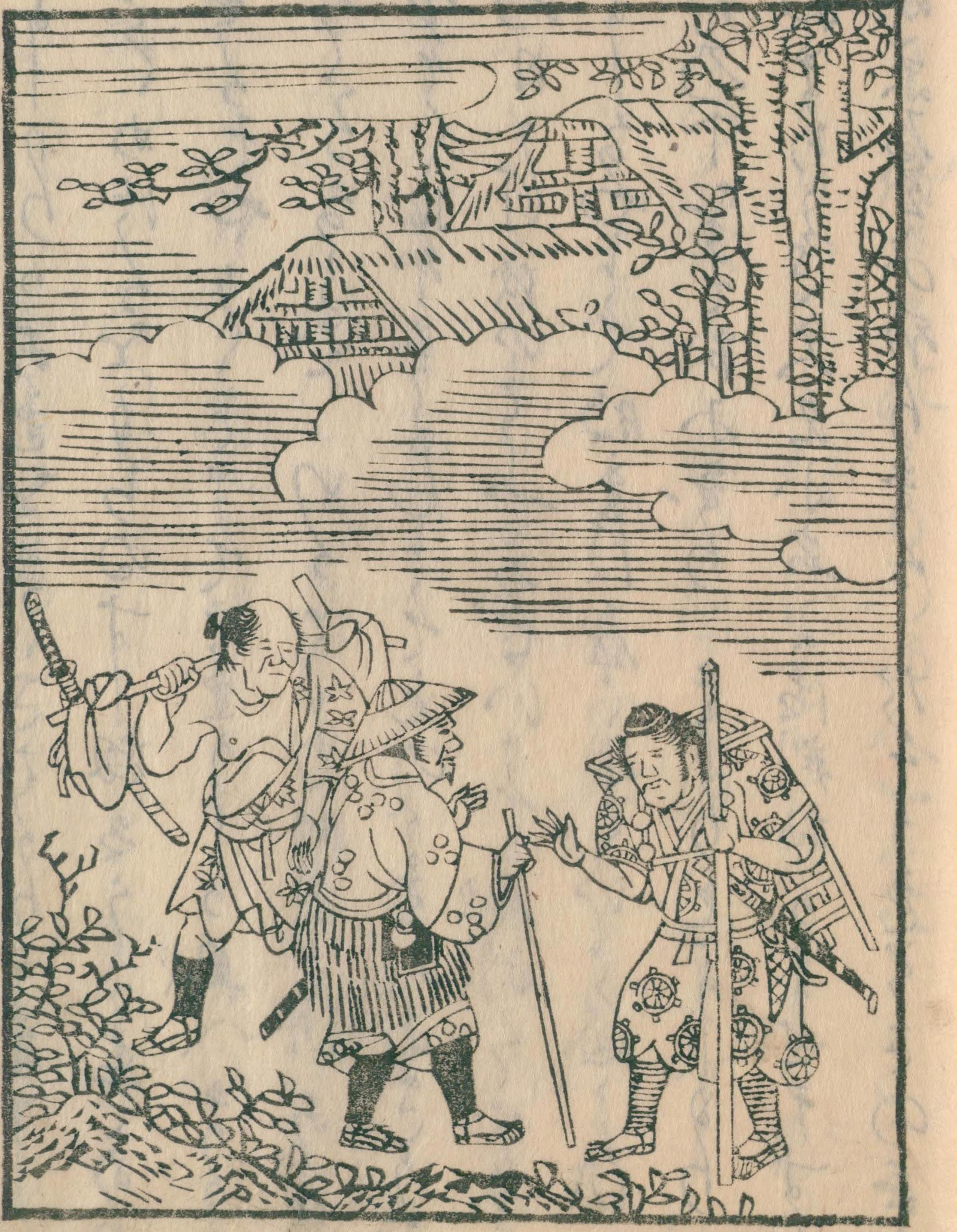


国立国会図書館　タイトル『きよしげ』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

はまころきびん乃きやうのうへと懸りたり
よしのり殿ころよりこやまぶし殿かん申せは
押とくひの事のあさましさよ人あまたぬれ
あらひおもし申せとて立まうせんりうか事し
なけきのなうのなけきさぞとうらうすそくそ
と懸りきろよしりりかあまつとてく座うあり
げなとおりひていそだなるはさくびん此た
ましと殿さくひのとくめるふいか座うなる山
伏かなふと概くはそもまうかやうなるきの
なりはきう度打しやと申なり　さひく申すゝ、

いふやうさむは押くむの事なるかなりかま
ろうをいそくこしなさるかうさせがたしといふ
ところまで判官殿の河内のさうひ駿河守
きよあけとや人まではかり梶原源太景末（けとき）よ
見あひねまはちうろなるなひ娘く座ぶりまうさ
きこよりさ史打はけくけ石割ちゆうしとく
打はけ法判とおほしきまきものをせられなふ
やひく播（まさ）磨ひきな文勝とりあむまはなひれ
あしよゆひ付ろう三尺八寸のいろこの作り
まろつきとねきまりかりかさしうさし大せい

のかたへまつて入をことく人被かうかり我
身ともろをまり給ふらひをはと同く鎌倉へ
のほせられてはそ山かしとそそと綴りまる

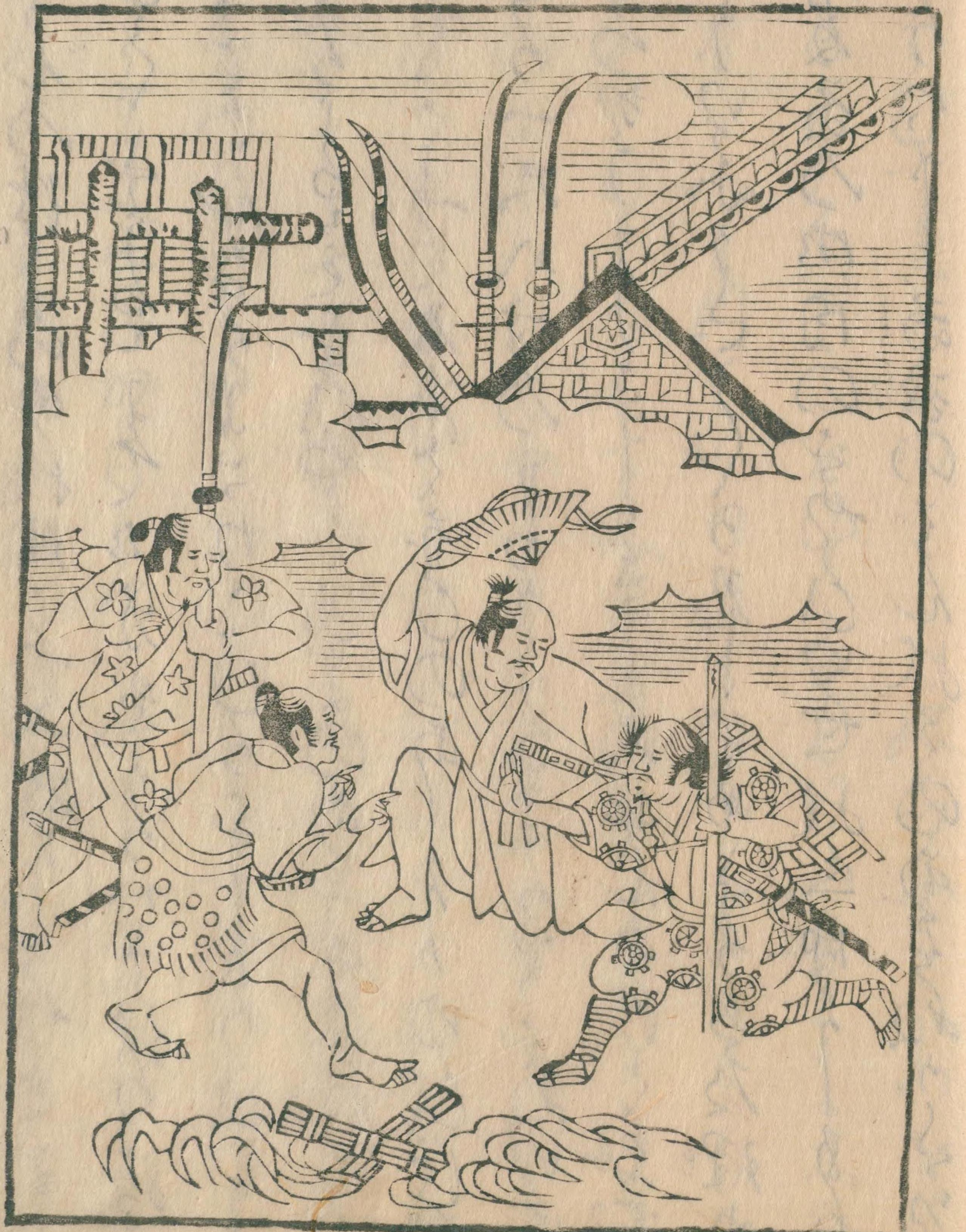


国立国会図書館　タイトル『きよしげ』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

よりりかあまたときくさぶらひそまゐりしか
とくめ清かともちぬすし梅をうしまてあり
まるそやうくとやてそまゐりしか奥（おく）へまゐらり
くろらあらむ　いかぶらり判官も清あら孫
ぬそく物がきらもんとそものゞまねおきらか
乃日うけ咸にふふぜいまそ奥（おく）別（べつ）くぐりを
よしるのやとそ的まれ庭にゆく いと庭とひ
竹乃下をそ出ふきり　しもりをよしめりゐ
都まちうさ大名小名よ清判物らませりすく
小京庵その砂りまら　たそうまゐとくさの事

なるつよ徳（び）中案れかりの海へと盛をうくふけ
よしありハさつねてハみて呈絵里きり畠（じん）れ
清らりのえ咸こそ散ゆん よと須らやまぶし
やうさく光ゆらなりうき咸ぬらまゐ候へとそ一
度（ど）ふならまそ物り立かうよしきりあのよ
こらよ里をそまゐやまぶし乃なうひみくこ孫
深り咸すら時ハこの祭（て）咸あさ本れ根（ね）咸枕（まくら）と
清らまうりようをさゐらさときらいね きゆう
出（で）羽（て）乃さくゞの やまぶし かくまし殿（の）へ系つと
あるへふり岩乃清らりのえ咸や待の山かしれ



ぎやうぶそもあくはあまりさとわりまうくへ
とてよしありうきこり番んあそうちての笠
をひきおとしてミそてあまはあんの内ぬよ
りわなり

国立国会図書館　タイトル『きよしげ』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

ぢんのほうのあられ給ひて一変りたりとまる
ひろくぶりまでは万をよろいしと縁り給ふ
そとまんなかはやうりこむろよしあり此より
さつきの事をなひやくひまのあくさまはなく
くさふく座前をなひのあしえりゆかはなけり
とう一尺八寸のかうらうろふすろまでぬいさ
まつ切りえりさしうさし太極んあけく名家（かのう）
やうのふうさくかゑとかめさうきた理（り）也
判官殿の御内のさうひやうえは三郎よしあり
なりたりし当家（とうけ）のぎんれいそのあきねからる
とそむすまでとゆきとり此あふさうらのほは
さきめえ見そこをひくなといふまでは大勢
のなかへ入ていりふしひかしまさきみ
くをてかくあと十文字座内をあうさといふ
そのままりたてなんまいしてさんくに
切たり又りてもとますむほどそのを十七
八端（きさ）をりふ世大勢に手（て）を掛ふ世東西へたん
となりちごしかくかのまんなかなりと内く
ある十文字にかきまはして十三まてうられ
ふりよしありかん中　球案線（きせん）上下なかしるへ

別13
25
28

うんせめんそあうのきる

国立国会図書館　タイトル『きよしげ』　請求記号 本別13-28

ガラス使用